

令和5年度 園評価書

園番号 44 園名 駒越こども園

I 経営の重点に関わること 評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心も体も元気な子	一人一人がキラキラ輝く	様々なモノ・ヒト・コトとの出会いと実体験できる環境づくりを継続し、子ども達と心が動く経験を重ねる	継続した飼育と季節ごとの飼育栽培で命に触れる機会や、季節に合わせて地域の自然に触れる環境を作ったことで子ども達が実体験をする中で心が動く経験を積み重ねることができた	A	A	若い人の思いとして“前に並え”が楽なのか、新しい意見を言ってもいいものかどうなのか迷っているようにも思える 日々教育保育に追われるしまうと子ども主体でなくなってしまうと感じるが、この園は丁寧に見てくれ預けてよかったと感じている	保育教諭自身が子供たちと一緒に楽しみ、保育者も心を動かしていく 様々な出会いの体験を計画的に行う 子どもの行動の前後を大切に 職員間の連携の強化と公開保育の充実(保育を見合い、意見交換をする) 子どもの心に寄り添い保育者の思いが強くなりすぎないように関わる 子ども達の遊びと一緒に入り込むことでつぶやきが拾えるので、子ども達と一緒に遊びじっくりと関わる 乳児は言葉がないのでつぶやきを拾うことが難しいが、視線や仕草、表情からの読み取りを丁寧にしていきたい
		子ども一人一人の背景や個性を理解し、心の動きに合わせて関わるタイミングを見極める	子ども一人一人の個性を職員間で共通理解し、子どもの姿に合わせた関わりをすることで思いの共有をした 関わるタイミングが合っているのか、不安もある	A	A		
		子ども達の生活・遊びの中でのつぶやきを丁寧ひろい、保育の中で活かしていく (振り返りの工夫と柔軟性)	子ども達の言葉を丁寧に聴き、つぶやいた言葉を聞き逃さず次の活動に活かしたり繰り返し遊んだりしたことで、子ども達が主体となり遊びが広がるが増えてきた つぶやきを記録する大切さを感じてはいるが時間の確保が難しい	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	発達や経験を考慮し、異年齢で関わる環境を整え、楽しさが味わえるよう援助する	幼児全員で行える教育保育ができ、発達に合わせたねらいをもち参加することができた 子ども達が他学年との交流を楽しんでいる	B	A	コロナ禍の時期が遊びや異年齢の交流を妨げていた。抵抗力の低い乳幼児がいるこども園では感染させない為の先生たちの苦労は計り知れない、その中でも園は頑張っていると思う	クラス間を自由に行き来できる時間を積極的に設けていく 積極的に関わる活動やペア活動、散歩の活用の活発化
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	長時間保育児が増加しているため、体調や情緒の状態等を引き継ぎ、一人ひとりに合った対応をする	保育教諭同士が細かく子ども達の様子を伝え合い、その日その子の姿や気持ちに合わせて関わる事ができた	A	A	中学生が小学校に来た時、とてもいい顔をしていた。異年齢だからこそ成長するものがある	一人一人に目を向け丁寧な関わりをしていくために、会議の報告を確実に 計画的な早番番の玩具提供と遊びの見直し
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子ども達の遊びの姿を見取り、環境構成と再構成を繰り返す	子ども達の遊びを丁寧に見取り、子ども達が主体的に遊べる環境を構成することを意識し教育保育を行ったスケッチブック研修と公開保育の事前事後研修で環境構成についての話し合いを丁寧に行った	A	A	学校でも若い職員が増えているが育成の余裕がないのが現状。ベテランと共に価値観を変えていく、教員は子どもと一緒に教育を変える、子どもの伴走者になるように考えている	職員が子ども達の遊びの見取りを丁寧にし、遊びの予測をたてるスキルを身に付ける 保育の振り返りの工夫と保育者のスキルを上げていく 園庭と公園の利用の工夫 や忠霊塔公園の活用方法をみんなで学ぶ
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な災害を想定した避難訓練や不審者訓練を実施し、非常時の判断力を培う ヒヤリハットで予測した危険に対して事故防止の対応を考え実践する	様々な災害を想定した訓練を行ったことで非常時の保育教諭の動きを確認することができた 危険箇所を見つけたらすぐに声をあげ、直すことができた 職員のヒヤリハットへの意識が低い	B	B	学校職員に前例重視を感じるところはある。「失敗しても挑戦していい」と言っているが“安心”で変わらないところもある。社会が変わっているのに変わらない現実がある。挑戦していくことには経過が大切であり、経過を認められることが必要になる	子ども達の活動の場が様々なため、その場で災害が起きた場合の避難方法を考える 職員の意識の向上(ヒヤリハット提出の増加) 様々な個性の子ども達がいる中での避難方法を再考する 訓練の様子を保護者に伝えていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	手洗いうがい等子ども達が必要性を理解し行えるよう、関りや環境の工夫をする	手洗いうがいの必要性は年齢に合った理解ができ、習慣化している 清水西高校生が手洗い指導に来園したことが刺激になった	A	A	地震対策として天井にぶら下がっているものがあるとい。どこのクラスにもあった方がよい	子ども達が自ら手洗いができる工夫をしていく 必要性を繰り返し伝えていながら保育教諭に言われなくてもできるようにしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	計画的な支援児会議と毎月のケース報告を行う中で、より良い支援ができるようにする。また、全職員に周知し園全体で同じ対応ができるようにする	支援児会議を正規保育教諭だけでなく全保育教諭が参加できるように工夫したことで、園全体で支援の方法を考える機会となりより良い支援につながった	A	A	不審者訓練も実際に起きたように危機感をもって訓練をすることが必要だと思。また、保護者にどうい訓練をしたか教えて欲しい 業務改善を行ったとあるが、「長く働くことが良い」は違う。翌日に子ども達と笑顔会えること、先生たちが元気であること、抵抗力が下がってコロナ等に感染しないよう学校業務改善は大事と考えるので、園でも業務改善は必須となるのではない	ケース会議と支援児会議の開催の工夫→全員周知を目指す 専門機関との連携を密にしておく ケース検討と支援児会議の検討と充実 担当者だけの問題にせず職員間の協力体制を作る
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の役割に責任をもち、組織として協力し合いながら運営を進めていく	職員会議で月1回、各分掌の進捗状況を報告したことで各自が役割を意識することができたが、分掌会議の不足から個人の負担となってしまう、運営が滞ってしまうことがあった	B	B	日頃から他クラスの保育を見合える工夫と個々のアンテナを高くする 自分の保育を分かりやすく記述する工夫 公開保育その後を大切にしてい⇒公開保育の成果と課題を学び合う 保育の語り合いの場、学び合いの工夫をする(全保育教諭が参加)	会議に参加できない職員への周知徹底→確実な報告と共有 「例年通り」ではなく「見直す」ことに意識をもつ 分掌会議の計画的な開催
6 研 修	(1)研修体制の充実	園内研修の中でスケッチブックを活用し、子どもの行動や遊びの過程、環境構成、保育者の関わり等を保育の語り合いを通して学び合う	スケッチブック作成と園内研修の時間確保の難しさから、クラス便り一体化し業務改善を行い学び合いの体制を新たに考案した スケッチブックを作成することで保育の振り返りはできているが、毎月の子どもの姿(写真)の読み取りと語り合いが減った 公開保育の事前事後研修では、保育を語り合い学びが深まるように工夫をした	B	B	遊びの継続への工夫 公園活用のメリットをうまく利用し、効率よく使用する工夫を全職員で共有する 2week話し合いを活用した教育保育	読もうと思って貰える、読みたいと思わせるお便りの工夫 保護者との会話を増やし信頼関係を深める 見やすいボードの書き方と見たいと思わせるボードの書き方の習得
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	室内、園庭、忠霊塔公園それぞれのメリット・デメリットを考慮し、遊び場として活用していく	2週間の打ち合わせを丁寧に行い、地域の公園と園庭などを効率よく活用し見通しをもった環境作りができているが、異年齢交流や戸外での造形活動、体育的な遊びなどの不足を感じている	B	B	休み時間散歩や年間計画でわかっていると ところなどで積極的に交流をしましょう。いつでも小学校に来てくれてかまわない。また、駒越小が来年度150年にあたり記念行事を考えている。まだ具体的な計画になってはいないが、園や地域との交流を考えている。 そのような機会を地域との繋がりにのきかけとしたらどうか。 来年度からコミュニティースクールがスタートする、幼小との繋がりをしていきたい	小学校の休み時間に合わせ散歩に行かせてもらい、児童との交流の機会をもつ 枝豆の栽培や地域の地踊りなど、こども園と小学校共に取り組んでいる活動の共有をしていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	お便りや毎日の保育を伝えるボードへの写真活用と各行事への参加を通して、子どもの成長や保育実践を発信し、コミュニケーション(対話)を大切に信頼関係を築き、ともに子育てを楽しむ	写真入りのクラス便りや速報で園の様子を保護者に発信したり、日々の保護者とのコミュニケーションを大切にすることで信頼関係が構築されている。また、園での教育保育活動に関しての話をしてくれることが増えた	A	A	地域だよりを子ども達が各施設に届けに行ったことで、小さな交流ができた 忠霊塔公園を地域の方と一緒に使用しているため、地域の方から声をかけてくれることが増え、時折交流する機会がもてた R6年度は地域のかかわりを年間計画に位置づけ、行っていきたい	地域との交流を年間の計画に組み入れ、関わりを深めていく 小学校のコミュニティースクール開始を起点とし、地域との繋がりを深めていく 忠霊塔公園の利用を地域との交流の場としていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の学校との連携の推進	散歩や学校見学で交流を図り、校舎や校庭、小学生とのふれあいを通し小学校に親しみを感じ、不安なく就学できるようにする	4中学区の4小中学校に毎月園だよりを送付し、園の教育保育を発信している 清水駒越小学校1年生主催の秋祭りに招待をして頂いたり、休み時間や忠霊塔公園での交流ができ、年長児の就学への期待が高まっている	A	A		
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	各地域施設へ地域版園便りを配布し、こども園を知ってもらう機会と子どもの魅力を理解してもらうことにつなげるとともにおしゃべりサロンやデイサービスとの交流、読み聞かせや公園の活用等地域の方とのふれあいを大事にし、保育に活かす		B	B		